

4つの中学校が統合

昭和50年4月1日に町内4つの中学校が統合され創設された美浜中学校。

当時、西郷中学校で教諭をされていた前教育長の浅妻保さんは統合当時をこう振り返ります。

▼各中学校では、3月の終業式後にすぐに閉校式を行い、3月末までに教材・教具・設備等の搬入作業をPTA委員と行いました。特にピアノ、岩戸（金庫）等の大型備品の搬入には大変苦労したものです。

町内4つの中学校が統合して美浜中学校が発足しましたが、丹生中学校は、残念ながら丹生分校が開設されるまでの2年間で「分教室」として授業を行いました。当時、私も週に2日「分教室」へ行き、楽しい雰囲気です。

統合当時の生徒数は、581人で3年生を中心に、



浅妻 保さん（金山）

前美浜町教育長
Tamotsu Asazuma



体育館で行われた落成式典

新生美浜中学校にふさわしい文武両道の教育活動が展開されました。当初は、4つの中学校から集まるということ

で、生徒同士がうまく学校生活を送っていたが、教師一人の心配もなかったが、実際は多くの心配もなく、生徒たちは多くの実績を上げました。

昭和51年度から52年度にかけては、文部省から「同和教育研究指定校」を受け、地域の指導者、保護者との連携によって顕現教育や地区進出学習を行いました。この取り組みは、今日の人権教育の大きな礎をつくったと言っても過言ではないと思います。

最後に、35年目にして新装となった素晴らしい学舎で次代を担う生徒諸君の活躍を大いに期待したいと思います。

美浜中学校の沿革「抜粋」

※青字はコメントをいただいた内容です。

年月	内容
S50・4	西郷中学校・耳中学校・美浜中学校・丹生中学校が統合し美浜中学校が創設される（生徒581人／15クラス）
S50・12	格技場が完成
S51・2	校歌制定
S51・4	文部省・福井県教育委員会指定同和教育研究指定校（2年間）となる
S51・10	テニスコートが完成
S52・4	丹生分校開設
S54・7	給食室を増築改修し、同年9月から米飯給食が開始される
S54・8	町制25周年を記念し、グラウンドで五木ひろし夏祭りが開催される
S57・10	この時「美浜町民の歌・若狭美浜音頭」が発表される
	体育活動や環境整備等の取り組みが評価され、学校保健体育の全国表彰を受ける

待望の新校舎が完成

美浜中学校の初代生徒会長を務め、現在同校の同窓会長をされている中川文雄さんに統合時のようすや同窓会について話を伺いました。

▼1期生となった私たちは、中学校最後の1年間を「統合中学校」で学びました。

新しい学校を順調にスタートさせたいとの思いから、統合の前年には、西郷中学校の皆さんが耳中学校の校内合唱コンクールに参加したり、各中学校の生徒会役員が新しい規約作りを目指し、各校を訪ねたりとさまざまな活動を行いました。

私たちは、新しい体制になってわずかの期間で、修学旅行や二州春季総合競技大会などのビッグイベントに臨まなければならず、慌ただしい1年間でしたが、「自分たちが新しい学校を作り始めているんだ」という充実感から、苦



中川 文雄さん（興道寺）

同窓会長
Fumio Nakagawa



楽しかった修学旅行（日光東照宮にて）

は感じなかったように記憶しています。

今思うと、統合により美浜町に生まれた者が中学時代に「同じ釜の飯を食べる」ようになったことで、美浜町が一つになったと感じています。

次に、本校の同窓会は、創立10周年記念事業を進める中で「今後の学校発展を支援するために同窓会組織が必要」という話が持ち上がり、既に社会人となっていた5回生までの数人が発起人となり、昭和60年8月に同窓会を設立しました。

これまで本会では、会員名簿の作成や学校図書への寄贈等に取り組んでおり、今後も次代を担う子どもたちに必要な支援をしていきたいと考えています。



藤長 さち子 さん (木野)

元調理員

Sachiko Fujinaga

給食に変化

昭和54年9月から導入された米飯給食。調理に携わった藤長さち子さんは、給食の思い出をこう語ってくれました。

▼米飯給食の導入までの主食はパンでしたが、皆さんは当時の献立で懐かしいメニューはありますか？鯨のケチャップ和え・鶏ササミのレモン煮・フルーツクリーム和え。パンでは、コッペパン・揚げパン・六角マーガリンなどを憶えていますか？

米飯給食は、当初週1回でしたが、1釜4升づつ16釜分を手で1時間くらいかかって洗ったことを憶えています。最初は、白いご飯を炊くのが精一杯でしたが、軌道に乗りはじめると、いろいろな工夫して、えのきご飯やチャーハンなどを作るようになりました。一番喜んでもらえたのはカレーライス。その後は、給食

週間をきつかけに中華井やつ井なども作りました。今では、ビビンバが人気メニューとなっています。

ご飯は、炊飯器の中釜をワゴンに乗せてありましたね。5升釜に4升のご飯を入れて乗せるので、とても重かったことを思い出します。でも一番の思い出は、給食室の前を通る生徒たちの「いい匂いがする」「おいしかったよー」という声が聞こえたことですね。みんなからもらった「感謝の言葉」の手紙も嬉しかったです。

給食室側から見た美浜中学校でしたが、私にとって最高に思い出深いところです。退職した今も、一緒に働かせていただいた皆さんに感謝しています。



週1回のご飯は楽しみの1つでした(昭和56年)

年月	内容
S58 10	吹奏楽部が中部日本吹奏楽コンクールで文部大臣賞を受賞
S59 7	町制30周年記念のNHK巡回ラジオ体操全国放送がグラウンドで行われる
S60 3	創立10周年記念事業として「ブロンズ像」を設置。併せて「10年の歩み」を発刊
S60 3	校訓「創造・誠実・友愛」を制定する
S60 8	同窓会を設立する
S61 4	ボート部を創設する
H2 7	ジュニア対外交流団として、生徒15人が姉妹都市台湾石門郷を訪問する
H3 11	福井県教育委員会若狭教育事務所指定を受け、学習指導充実の研究発表会を行う
H5 9	視聴覚教室をコンピューター室として改修し、コンピュータ20台を設置する
H5 11	福井県図書館研究協議会の「図書館教育研究大会美浜大会」で公開授業を行う

吹奏楽部の飛躍



筒井 由紀 さん (佐野出身)

(旧姓・野呂)

元吹奏楽部部長

Yuki Tsutsui

昭和58年10月に中部日本吹奏楽コンクールで文部大臣賞を受賞した美浜中学校吹奏楽部。

当時、部員の一人として日々練習に励んだ筒井由紀さんに当時の思い出をお聞きしました。

▼「第26回中部日本吹奏楽コンクール文部大臣賞は、福井県代表美浜中学校」愛知文化講堂に響くアナウンスに、私たちは歓声を上げました。

当時の練習は厳しく、朝夕の通常練習に加え週末も休みなく、夏休みは暑い音楽室で汗だくになりながら合奏をしました。コンクール直前には、夜用の弁当持参で登校したこともあり。今では、よくやり通したなと思います。が、当時の私たちはコンクルの県代表は当たり前。大会でも金賞は必至という伝統を受け継いで行くには当然のこと

とだと思っていました。音程が低かったり、リズムが合わなかったりすると、顧問の先生から厳しい指導があり、上手く演奏できない時は悔し涙を流しながら、仲間と励まして練習したことを憶えています。しかし、今となっては、とても密度の濃い時間を過ごせたと感じています。

大会の演奏直後に味わった充実感は、26年経った今でも忘れることができません。それはきっと仲間たちも同じだろうと思います。今も、当時の私たちを支えてくださったすべての人たちに感謝しています。



文部大臣賞を受賞した吹奏楽部員

ボート部の礎を築く

今や日本のトップを走り続けるボート部。初代主将を務められた田邊義之さんに発足当初のお話をお聞きしました。

▼昭和61年4月、当時すでに美浜ローイングクラブや関電美浜の諸先輩方が活躍されている中、「ボートの町・美浜」の一員として我が美浜中学校ボート部が誕生しました。

「比較的馴染みの薄いボート部に何人集まるだろうか？」と不安に感じていた中、蓋を開けてみれば頼もしい仲間がたくさん集まり、賑やかなスタートを切ることができました。

指導には、顧問の内田雅文先生と、コーチの野原佐智夫さん（美浜RC）が就いてくださり、全くの素人の私たちを根気よく、また楽しく指導してくださいました。



田邊 義之 さん（久々子出身）

初代ボート部主将
Yoshiyuki Tanabe



当時のボート部員たち

ボートは、筋力・持久力・柔軟性・バランス・リズム感覚すべてが要求される非常に難しいスポーツです。

思い出深いのは、嶽山登頂トレーニング。延々続く坂道を頂上まで一気に駆け上がる、体力・精神力が試される非常に厳しいもので、その時に培われた粘り強さは社会人となった今も私の財産となっています。

初年度から全国大会にも出場。優勝は果たせなかったものの入賞を重ね、福井に美浜中ボート部ありと存在感をアピールできたと思います。小さな一歩でしたが、最初の一ページを刻めたことを誇りに思います。

H6
・9

創立20周年を記念して「美浜中学校祭」を開催。歴代校長より図書の寄贈を受け、図書館に「東雲文庫」を設置

H6
・12

生徒会で校則の改正に取り組む、保護者の賛同を得て頭髮を自由化する

H8
・7

O・157食中毒が全国に広がり、対応策として給食室の改修・消毒を実施する

H10
・7

全国中学校選手権競漕大会で女子が総合優勝を飾る

H15
・7

全国中学校選手権競漕大会において男女とも総合優勝を飾る

H15
・10

ジュニアオリンピック大会Cクラス女子砲丸投げで渡辺希実さんが優勝を飾る

H16
・1

中高一貫教育実践研究に係る中高一貫教育推進校となる

H17
・3

「美浜町子供議会」が町議会議場で開催され、生徒代表者21人（2年生）が議長・議員・傍聴者として参加する

国際感覚を培うホームステイ

平成2年から隔年で実施している姉妹都市台湾石門郷ホームステイ事業には、これまでに164人の生徒が参加し、国際的な視野を広げてきました。

平成2年に初めてこの事業に参加し、訪台した寺川和亜さんは、当時の体験をこう振り返ります。

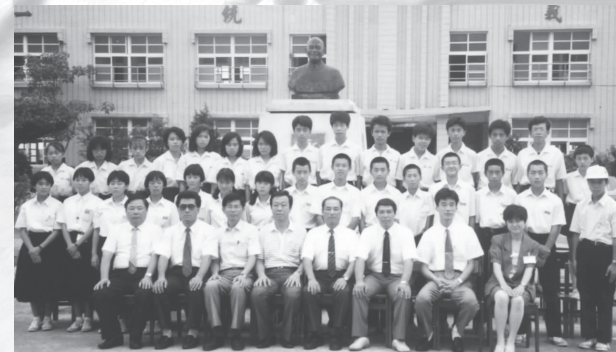
▼中学時代に体験した初めての海外研修を振り返ると、鮮やかに蘇ってくるのは台湾のもつ独特な空気。その密度、匂い。果実とスパイスをミックスしたような香り。同じアジアの国、その根底にある日本との共通項を微かに感じ取りながら、日本とはちよつと違う感じを私はずっと意識していたような気がします。

1回目の交流事業。私たち中学生は決められた日程の隙を見つけては自分たちの触角



寺川 和亜 さん（早瀬）

初代ジュニア対外交流団員
Kazue Terakawa



1回目の交流事業に参加した生徒たち（石門国民中学校にて）

を動かしていました。何かおもしろいもの、何かドキドキするもの。

それはいわば不自由に内在する自由。型に嵌められていながら、そこからはみ出してしまうもの。そしてそれは、アジアに属する台湾独自の空気と同じ意味合いを持ちます。アジアという型からはみ出す何か。

そんなふうに異国を体感できたのは、私が中学2年生だったからだと思います。自分の感覚だけが神様だったあの頃を思い返すと、中学生たちが眩しく愛おしく、今の私の眼には映ります。